

■会議報告

第13回日本放射光学会 放射光基礎講習会
「イチからわかる放射光 基礎から応用まで」報告

日本放射光学会行事幹事 小嗣真人 (東京理科大学)
日本放射光学会行事委員 小林正起 (東京大学)

日本放射光学会では、我が国の放射光施設およびユーザー団体と協力し、放射光科学の裾野拡大と、放射光科学入門者に向けた基礎教育の充実を目的とした放射光基礎講習会を過去12年にわたって開催してきました。第13回目になる今回は「イチからわかる放射光 基礎から応用まで」という副題で、2021年9月14日(火)～15日(水)の二日間にわたり開催しました。

第13回も、導入編と実践編の二部構成とし、導入編では放射光を新たに利用しようとしている学生・研究者に向けて、放射光科学のホットな話題をわかりやすく学べるコースとしました。また実践編では、放射光の特性をフル活用するための基礎知識を、放射光科学の最前線で活躍中の専門家から直接学べるコースとしました。講義は講師のPDFテキストを基本に、昨年度と今年度の録画コンテンツをオンデマンド配信する形をとりました。さらには副読本として「放射光ビームライン光学技術入門」を併用しながら、理解を深めていくプログラム構成としています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、完全オンライン開催としました。オンラインのメリットを活かすため、まず初日の導入編を無料とし、初学者が気軽に参加できるようにしました。また広報動画を新しく作成し、幅広い参加者の勧誘を試みました。以上のしかけは昨年度の「ゼロからわかる放射光」を一步前に進めたもので「イチから」放射光科学を学べる構成にしています。

プログラム

9月14日(火)

【導入編】

13:00～13:10 挨拶 小嗣真人(日本放射光学会 行事幹事)

13:10～14:50 「放射光光源とは」北村英男(理化学研究所名誉研究員)

14:50～15:50 「コロナ時代の創薬を目指した放射光構造生物学」山本雅貴(理化学研究所放射光科学研究センター)

15:50～16:50 「機械学習によるハイスループット放射光解析」上野哲朗(量子科学技術研究開発機構)

17:00～19:00 座談会

9月15日【実践編】

10:00～11:00 「X線ビームライン光学技術」

山崎裕史(高輝度光科学研究センター)

11:00～12:00 「軟X線吸収分光法を用いた物質・材料研究～困難の克服への果てしない挑戦～」

雨宮健太(高エネルギー加速器研究機構)

13:00～14:00 「光電子分光による物質科学研究」

吉田鉄平(京都大学大学院人間・環境学研究科)

14:00～15:00 「X線回折の基礎から共鳴軟X線散乱まで」

中尾裕則(高エネルギー加速器研究機構)

15:20～16:20 「放射光を利用した生体試料顕微イメージング」木村隆志(東京大学物性研究所)

16:20～17:20 「XFELを用いた超高速ダイナミクスの研究」

久保田雄也(理化学研究所放射光科学研究センター)

17:20～17:30 おわりに

今回は、過去2番目となる153名の方々に参加いただきました(図1, 図2)。対面時と比べて2倍を超える参加者となり、気軽に参加できるオンラインの恩恵を受けた形となります。導入編のみでは69名を集客することができ、幅広い初学者に向けて講義できたと考えています。また実践編でも例年平均の24名増となる84名を集客することができ、多くの方に参加いただきました。詳細な内訳としては、会員(社会人)24名、会員(学生)41名、非会員(社会人)7名、非会員(学生)10名、非会員(共催団体)2名、無料の基礎編のみ受講(社会人)30名、無料の基礎編のみ受講(学生)39名で、いずれも対面時を上回る参加者でした。なお本講習会を通じて25名の入会がありました。今年も海外からの参加があり、オンラインならではの嬉しい出来事もありました。

なお参加費収入は例年より僅かに減少となりました。学生会員の参加費を無料としたことによる影響と考えられますが、教育と普及啓蒙はトレードオフなのでなかなか難しいところです。支出として広報用PR動画の作成費を計上したため、今年度は赤字が膨らんでおります。ただし微修正で次年度以降再利用できるものを作成しましたので、継続的な活用を期待しています。

基礎講習会 参加費収入・参加登録者数

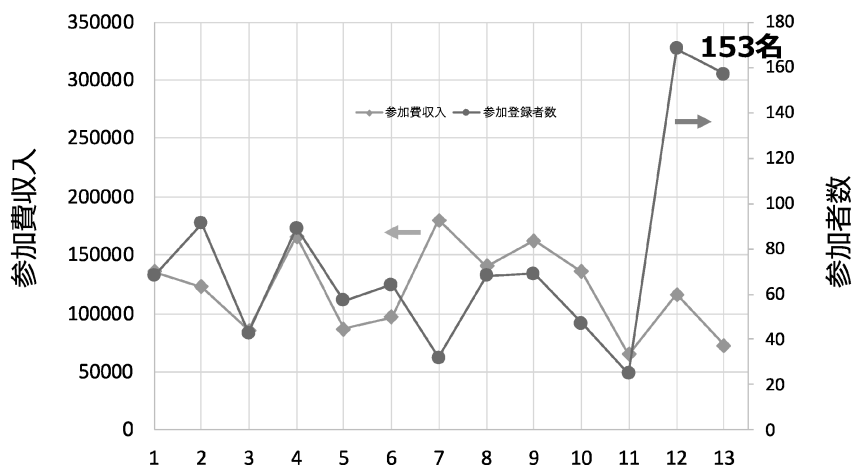


図1 参加者数と参加費収入の推移



図2 オンライン会場の様子。本年度も Zoom にて開催となりました。

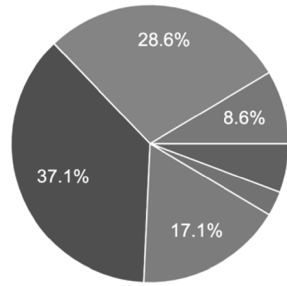
参加者アンケートの結果(図3)では、大学からの参加者が一番多く、次いで研究機関、民間企業からの参加者が占めました。放射光利用に関する経験年数としては、初心者から5年以上まで様々な方々に参加していただきました。参加の理由を伺った所、放射光の基礎を学びたい、あるいは実践的な研究事例をフォローしたいとの意見がありました。講義の中では計測インフォマティクスが注目を集めたようで、昨今の情報科学への期待を感じることができました。また何名か現場の研究者が参加しておられ、学び直し需要があることも思わぬ発見でした。なおオンラインでの研究会はこの2年間で定着した感があり、接続や音声のトラブルは落ち着いたようでした。今年度も講義動画は録画しており、後日オンデマンド配信を行う予

定しております。この2年間で基礎から応用まで幅広い講義コンテンツを整備することができましたので、今後の放射光科学の教育啓蒙に役立てていただきたく思います。このことから基礎から応用までをカバーする基礎講習会のミッションを満足できたと考えています。

最後に、工夫を凝らしたテキストの準備にお時間をかけていただき、素晴らしいご講義をいただいた先生方、当日の司会進行、会場および交流会の準備などをご担当いただいた東大の小林正起先生、そしてWeb参加受付、当日受付、庶務全般にわたってご尽力いただいた学会事務局(榎ポラリス・シクレタリーズ・オフィス)の中村千佳さんに深く感謝申し上げます。

ご所属を選択ください。

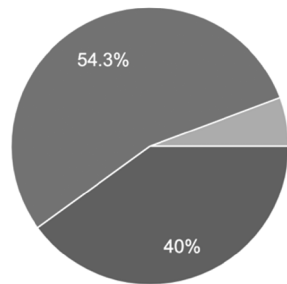
35件の回答



- 民間企業（研究）
- 民間企業（製造）
- 民間企業（事務）
- 大学（教職員）
- 大学（院生）
- 大学（学部生）
- その他

本講習会は役立ったでしょうか？

35件の回答



- 非常に有意義
- 有意義
- 意義はあるが不満足であった
- 有意義ではなかった

図3 アンケート結果